

2-10、11 自主防災組織の活動において、課題となっていることはありますか。（回答一覧）

人材不足、高齢化、共働きなどで思うような活動が出来ない。

具体的な行動をどうとるか、訓練に参加してもわからない。要支援者の支援の程度に差異があり、該当者と思われる人も他にも多いと思われる。

参加者がいつも同じである

組織に若い担い手リーダーがいない。なり手が出ない。組織に女性が少ない。

要支援者が多くおり、非常時にできるだけ短時間で連絡誘導できるよう対応方法を具体的に考えていかねばならない

積極的に防災に取り組もうとする意識を向上させるにはどうしたらよいか

地区の高齢化

自治会役員が担うため全ての仕事出来るか（時間内に）問題

参加し協力してくれる人がいない

災害時に夜や悪天候時にどれだけ連絡、要支援者に手がまわるか自信がない

災害時の活動、避難行動要支援者への対応について実際の経験が少ない 組織が高齢化している

避難行動要支援者個別避難計画書の年度毎の更新の必要性の確認作業

人員の確保

組織の年齢構成が逆ピラミッド型、参加者に偏り

高齢者が多く担い手となる人がいない

予算はもちろんのこと、人材が高齢者のため、参加者・担い手に不安がある。また、補償がないので活動範囲が明確にできない。

高齢者世帯の増加

役員のみ参加

世帯数・人口の減少と高齢化が進んでいる

高齢者が大半なので役員の担い手がないこと

町内での意識が薄い

活動内容の見直しを検討中

災害時における具体的な活動内容の知見不足。要支援者近所への周知が出来ない。

活動の内容として、どの程度まで自主防災会が関与すべきか？

組織はあるが具体的活動を行っていないため

2-10、11 自主防災組織の活動において、課題となっていることはありますか。（回答一覧）

避難行動要支援者個々人の介助の方法がわからない。活動中の事故が心配である。協力を得ながら地域を動かすむずかしさ。

若い世代が少ない

全体的に高齢化が進んでおり、支援体制の構築が困難である

平常時における人手不足

若い人材がない。高齢化が進んでいる

車椅子を必要とする要支援者に避難を勧めても、拒否される。

連続計画・体制の確立

地域性として災害への危機感がない

1) 自主防災規約及び組織図はあるが、各部門の具体的な手立てを定めていない 2) 情報伝達における一人当たりの担当が多すぎる

参加者が少ない

平常時の活動とはどのような活動をすればよいかわからない。自治会役員のなり手不足のため、十分な活動ができない。

避難する場合、車いす3台は必要

コロナ禍以降行事への参加者が減少

平常時と災害時の現実的な感覚つかめなため、イメージが合致しない

定年延長、勤務継続等のため日中不在となることが多くなり、万一の際の活動が後期高齢者中心となることが懸念される。

日中一人暮らしになってしまう高齢者への対応

第一避難所の振興センターまで遠くて4～5Km有る。避難要支援者を搬送する車両や、支援者が自宅の他に該当者も連れて行ける可能性が低い。

担い手不足からくる活動体制等の構築化の難しさ

課題そのものの理解がない

どんな災害を想定したらよいかわからない

訓練日時の設定（地域行事多い）避難行動要支援者との連携

高齢者の増加により担い手が不足。若年者は興味がないため参加しない

活動費がない

やれる人がいない

避難勧告等の連絡はできるが、実際の避難行動をどうしたらいいかわからない。

2-10、11 自主防災組織の活動において、課題となっていることはありますか。（回答一覧）

災害時における要支援者等への誘導、連携プレーをどうするか

自治会で構成しているため活動費の予算をとっていない

民生委員との連携が重要となる

災害想定が具体的に見えない。地域全体の連携が必要で個々の自主防災では活動が限られる

災害発生時に仕事の関係等で地域に居ない役員が多く、活動体制を検討している。また、訓練等を計画しても参加者の確保に苦慮している。

地震発生時及びそれに伴う火災発生時の避難誘導などの具体的な事例に対する対処を知る為の研修会が無いので活動体制の構築や訓練に支障をきたしている

自主的に参加する方が少ない

区長が防災組織の代表を兼務しているため多忙で手が回らない

災害時に赤札の方の避難行動要支援の対応は難しい事がわかった。

役員の高齢化 何かのついで（抱き合わせ）でないと人が集まらない

高齢化

災害が限りなく0に等しい地区（そう思っているのかもしれない）

現実的にどの様な災害が起こるか想定できない

想定される災害は大地震による家屋崩壊のみと考えられる地域で、災害に関心が薄い

参加者の確保がむずかしい

消防団員・自治会役員が不足なので組織の基本が弱い

地域内の高齢化により活動出来る人材がいない

普段あまり災害が少ないので関係者以外参加者が少ない

平常時から有事の場合の意思疎通ができていない

防災会規約等は整備されているがコロナ禍前から総会も開催されないなど組織が形骸化していて再構築が急務であることは認識しているが進展していない

物理的に無理がある

市の職員や消防団員が多く災害地区のためだけに活動するのは困難である

個人情報保護の関係で要支援者名簿をオープンにできない

対応できる住民がいない

2：日中仕事等で対応できるかどうか

2-10、11 自主防災組織の活動において、課題となっていることはありますか。（回答一覧）

活動の方法等について専門的な担当者の指導を願いたい

平日の特に日中は、活動で出来る人員が居いない。日曜日でも行事があり訓練又は活動人員が少ない

平時における役員の意識の徹底の必要性

高齢化と退職（定年）延長で次世代へ引き継げない。

災害時、実動可能者が少ない

自主防災の組織図に人数を当てているが、役割そのものの行動をどうやれば良いのか分からない

誰が何を利用して対応するかとなると良い方法がでてこない

地域住民の高齢化により参加者の確保がむずかしくなってきた

役員に勤め人が多いので休日以外に災害が起こった場合の体制の確立

組織図が立派すぎて対応が出来ていない。

要支援者の連絡にちゅうちょしてしまう

活動の主体となる年齢層はサラリーマンが多く、平日日中は地域に残っているのは高齢者が大半である。平時の活動は自然と土日開催になっている。災害が平日日中なら充分な活動は望めない。

行事等を企画してもなかなか人が集まらない

独居老人が多い。要支援者の避難は、まずは家族が情報提供いただいて対応となる

見直しされていない

地区行事全般について、コロナ禍を期に参加率の低下を危惧している。役員等を担っているときは対応するが、離れた後は消極的な参加や対応になる傾向が気になる。

実際に災害が発生した時の対応がわからない

この地域は災害がおこらないと言う安心感があり積極性不足

当地区は災害の危険性が低く地区民の意識が低い。避難場所に行く人はいない。

自主防災の任期2年ということと昨年までのコロナ禍で訓練が途絶えたこともあり、防災に対しての知識不足でリーダーシップが取れないこと。

要支援者の方には個人的に情報をふせたいと申し入がある。ただし、安全確保の対応になれば地区民の方々にははっきりとした支援情報を共有することが必要と思う。

サラリーマンの人は災害時に活動できないことが予想される

自主防災会規約発見。公民館役員を事務局体制を整えたが、具体的活動方法を模索中。コロナのために対面式の地区総会を開けていないため活動の趣旨が広まっていない。

高齢者が多く暮らしています。約90%は65才をすぎております。

そもそも災害時の活動体制、要支援者の対応について集落で話し合ったことがない。災害を他人事のように受けとめている(自分も含めて)

2-10、11 自主防災組織の活動において、課題となっていることはありますか。（回答一覧）

各自仕事の合間での行動

過疎化、高齢化

組織の高齢化

要支援者と支援者が記された文章、図を更新したことがない。要支援者が××介護ホームに入所して不要になったとか、支援者自体が入院しているとか見直しのタイミング（トリガー）も必要。特に個人情報となってからどうしているかの話題が少なく知らないでいるケースが多い。

危機感がない。他人事の様になっている人が多い。

参加人数不足（若人が少ない）

①高齢化している ②担い手不足

想定される災害に基づく具体的対策を行えていない

高齢化・一人世帯が多く、消防団員に頼らざるをえない

実際に避難が必要になった時家族と連絡が取れなかった場合の対応

勤務者が土日対応の方もいるため

主導する担い手がない

高齢化により災害時における対応が鈍いように感じられる

支援者が仕事等でいない時の支援方法

高齢化により若者が少ない。高齢化率56.4%

高齢者が多く日中避難支援を手伝う人がいない

要支援者に対する支援行動の内容がわからない